

風土記の丘の花だより³³⁵

今、そしてこれから見られる植物(2026年8月23日)

日に日にツクツクボウシの声をよく聞くようになりました。オオカマキリも姿を見せ始めました。そろそろ夏も終わるのかなと感じますが、暑さはまだまだ続きそうです。ときおり降ってくれる夕立には少しホッとさせられます。



夏を代表する花、サルスベリがきれいに咲いています。花が少ないこの時期には貴重な花木です。フリルのようなこの花のつくりにはいつも感心します。小さな花がたくさん集まっているように見えますが、花が3, 4個集まっているだけです。分かりやすいように手前の花びらは外しましたが、一つの花は右の写真のような作りです。かなり大きいですよ。



これは厄介なひっつき虫の一つイノコズチの花です。これでも花なのです。かつてはヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチに分かれていて、写真のようなのをヒナタイノコズチとしていましたが、このごろはまとめてイノコズチと呼ぶ事も増えました。ヒユ科といいますから、お馴染みの花でいうと、ケイトウやセンニチコウなどと同じ仲間ですね。実は大きなトゲのようなものがあり、衣服などによくくっつきます。小さいので、取るのがとても面倒です。



旧谷山家住宅の庭に薄紫色のキキョウランの花が咲いています。暖かい気候が好きなこの植物は和歌山県にも自生しています。でも珍しい植物です。花の色がキキョウに似ていて、葉が細長くシンビジウムなどのランに似ているので、こんな名前になったのでしょうか、ランではありません。花の後には花より鮮やかな紫色の丸い実ができます。それも花に負けず劣らずきれいです。旧小早川家住宅の近くにもあったのですが、草と一緒に刈り取られることがよくあります。



これはとても小さくて観察しづらい数ミリの花です。名前はアオツツラフジ、他の木などに巻き付くつる草です。このつるを使って「つづら」を編んだことからツツラフジと名付けられたといいますが、こんな細くて弱いつるで、そんな大きな物が編めるのでしょうか？まあ、そんな話は信じた方が楽しいですよ。雌雄異株で、雌株には青っぽい実ができます。その実を割るとアンモナイトのようにグルグル巻いた小さな種が出てきます。秋まで覚えておいてください。

この暑さのもと、花を探すのも大変ですが、みなさんも熱中症に十分注意しながら花散歩を楽しんでください。

松下